

兵庫県立病院薬剤部 教育研修委員会だより

第15刊

平成30年3月

編集発行：

兵庫県立病院薬剤部長会議

教育研修委員会

教育研修委員会の取り組みについて

1988年の診療報酬改定の「入院調剤基本料」において入院患者への服薬説明や個人セットでの注射薬の払出し等により入院患者1名あたり月1回100点を算定できる制度がはじまり、約30年が経過しました。その後、薬剤管理指導業務となり、診療報酬点数が徐々に引き上げられ、2012年には新たに病棟薬剤業務実施加算も算定できることとなりました。2018年度は診療報酬・介護報酬の同時改定がありますが、薬剤師は限られた医療・介護資源の中で薬物治療の質をさらに向上させ、安全安心な医療の推進に貢献しなければなりません。

このような状況の中で、教育研修委員会は社会のニーズに応えられる専門性の高い薬剤師の人材育成に取り組んで来ました。平成29年度の主な取り組みは、①専門性の高い薬剤師研修の企画、実施、②総合型薬剤師育成のためのラダー研修の円滑な実施及び専門・認定薬剤師の資格の取得推進、③県立病院間での相互利用の活性化です。

その内容としては、全体研修及び階層別研修を実施し、チーム医療ですぐに実践できる医療のマネジメントやコミュニケーションの方法などを学びました。専門・認定薬剤師の資格取得を推進するため、専門研修を行い、資格取得に必要な条件のみならず、それぞれの分野で深い知識を得る機会を設けました。また、それぞれの施設に特徴がある兵庫県立病院間で相互利用し、他施設の薬剤師との交流等により様々な情報を得ることができ、自施設での業務に活用しました。

今後も県立病院薬剤師という立場を大いに生かし、教育研修委員会が企画した研修会で学んだことを一つの契機として、さらに各自が積極的に自己研鑽することにより知識を深め、それを業務に生かせるよう、今後とも実りのある研修会等を企画・実施しますのでよろしくお願いいたします。

薬剤部長会議教育研修委員会 担当部長

加古川医療センター 薬剤部長 兵頭 純子
柏原病院 薬剤部長 辻本 純子

「光風病院」から「ひょうごこころの医療センター」へ

薬剤部 東 佑輔

当センターは精神科救急医療センター・アルコール依存症病棟・児童思春期センター等を設置し社会の変化や高齢化に伴う様々な精神疾患に対応しています。

更に平成 29 年 1 月には、神戸市の認知症疾患医療センターの指定を受け、これまで長く親しまれてきた「兵庫県立光風病院」という病院名が「兵庫県立ひょうごこころの医療センター」へ変更となりました。

このような状況の中、薬剤部では「チーム医療を推進し、安全・安心な薬物治療を提供する」を目標に掲げ、それを達成するために、各薬剤師がカンファレンス・チーム医療に積極的に参加して、医療スタッフと患者さんの情報を共有し、副作用等のモニタリングを行い、薬物治療の向上・副作用の軽減のため医師に処方提案を行っています。特に患者の再入院を防ぐには、服薬への理解と正確な服薬は大きな要因であると報告されており、退院前から退院にかけての指導には力を入れています。

また、今年度から患者のアレルギー情報・持参薬情報などを薬剤師が患者・家族から情報収集し、より密に他の医療スタッフと情報共有することで安全・安心な薬物治療に貢献しています。

精神科患者さんが社会や家庭の中で自分らしく生きていくためには、薬物治療も大きく関わっています。薬について最後まで責任を持ち、今後とも患者さんに寄り添うことの出来る薬剤部を目指しています。



平成29年度県立病院薬剤師研修報告

全体研修（全職員対象）：平成29年6月3日（土）兵庫県私学会館

参加146名

●医療におけるコミュニケーションについて～感染症治療を中心に～

神戸大学医学部附属病院感染症内科 診療科長 岩田 健太郎



コミュニケーションをとるためには、まず思い込みを排出しなければならない。

疑義照会でコミュニケーションがうまくとれないのはそれぞれの「立場」で話をするからで、ゼロベース（立場や前提は持たない）で話をする必要がある。

相手に変わって欲しいと思う時は自分も変わる覚悟を持って話をするべきであり、逆の立場になっても同じ事が言えるかどうかを考えてみることも重要である。

感染対策については、「感染対策とは過去の失敗と違う結果を得るためのものである。」二度目の感染が起きた際、今までと同じ対策をとっていても、感染を繰り返す可能性がある。添付文書だけでなく、教科書となるようなところから情報を得て判断することも必要である。

慣習に流されず、ビジョンとミッションを持ち、目指すべき形に近づけるためのディスカッションを繰り返すことでコミュニケーションスキルが身につく。目指すべきビジョンの中心となるのは患者であり、患者が不利益を被ることのないよう常に患者にとっての最善の状態を考えていかなければならない。

日常業務の中でつついとおろそかになりがちな根本的のところを、具体例をあげて話していただくことで、再確認する良い機会となった。

●がん薬物療法の最適な使用を目指した薬剤師のミカタ

淀川キリスト教病院薬剤部 係長 槇原 克也

本講義ではいくつかの症例を通して、がん薬物治療において薬剤師が着目すべき点や問題への対応策について学んだ。

近年、様々な新規抗悪性腫瘍薬が開発されている。薬剤の種類によって用量設定や代表的な副作用、注意すべき併用薬などは異なる。さらにそれらの点について検討する際に薬剤の機序や物性を考慮することは、より良いがん薬物治療の実践において重要である。例えば、下痢は抗悪性腫瘍薬によって誘発される代表的な副作用だが、その対応策は薬剤によって異なる。これは、薬剤の機序がそれぞれ異なるために、下痢の原因も異なるためである。近年、科学的根拠に基づく医療（EBM：evidence-based medicine）が推進されているが、今後は科学的視点・推察に基づく医療（SBM：science-based medicine）の実践が求められる。そして、がん薬物治療においては治療の目的を明確にし、疾患ではなく患者に向き合うことがなにより重要である。

本講義を通して、抗悪性腫瘍薬に関する様々な知識はもちろん、症例に関する考え方や薬剤師としてあるべき姿勢を学ぶことができた。



●地域包括ケア時代の病院薬剤師像の実践に向けて

八尾市立病院企画運営課 参事 小枝 伸行

本講義では、病院薬剤師が知るべき現在の医療情勢や公立病院のあり方について、薬剤師、また経営・運営者の視点から解説があった。病院薬剤師は、顧客満足、学習と成長、業務のプロセス、財務の4つの視点を持ちながら、使命、理念からビジョンを描き、戦略、戦術から行動、また評価を行うことが大



切である。近年の少子高齢化、医療財源不足に伴い、患者の病院や施設へのニーズ、病院施設の役割は多様化しており、地域包括ケアシステムの構築が整いつつある。地域医療連携の中でも、公立病院は医療圏全体の医療水準の維持と向上の推進を担うことが求められており、薬に関しては、保険薬局との連携が必要で、双方で効率的・継続的で、安全でよりよい薬物療法の提供することが求められている。また今後は上手く ICT を活用し、薬業連携を行なっていく必要がある。

最後には八尾市立病院での疑義照会方法やトレーシングレポートなどの取り組みの紹介もあり、より具体的な戦略を聞くことができ、日々変化する社会情勢を背景に、地域の中での病院薬剤師の役割を考え、実践していく必要があると感じた。

階層別研修（職員前期対象）：平成29年11月18日（土）兵庫県私学会館

参加40名

●医療機器・医療器材の知識（注射・点滴での使用機材）

テルモ株式会社神戸支店ホスピタル事業部医療器担当 チームリーダー 多田 国弘

医療用機器の種類、使用方法、管理方法等を講義及び実習を通じて学んだ。まず、点滴に使用する医療器材について実物を手に取りながら違いや使い分けについての説明があった。輸液セットは使用薬剤によるチューブへの影響(薬剤の吸着・収着、可塑剤 DEHP の溶出)を考慮して選択する必要がある。中心静脈カテーテルは使用用途別に種類があり、留置期間や合併症発生のリスクを考慮して選択する。カテーテルの内腔が最大3つまで分かれているタイプがあり、ルート内の薬剤混合が避けられるが、感染のリスクが高まるという意識が必要である。実際の手技として、①必要器材の準備②生食でプライミング③模擬腕に静脈穿刺④留置針と輸液セットを接続固定⑤滴下速度調整までの点滴注射の演習を行った。さらに、学んだことを基に各班で輸液ライン設計をする演習を行った。そこでは、昇圧系・降圧系のラインを分ける、配合変化を考えpHを分ける、緊急時用の予備ラインやワンショットできる側管をつくる等、ライン組みの基礎を学ぶことができた。今回の研修で学んだことは日常の病棟業務においてすぐに活用できるような内容であり、今後は医師や看護師に対し、ライン設計の提案、相談応需を積極的に行っていきたい。



●専門・認定薬剤師をめざして～活動、役割、取得のためのアドバイス～

教育研修委員会 副委員長 瀬川 和子

加古川医療センター薬剤部 職員 出井 枝里子

(日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師)

専門薬剤師・認定薬剤師認定制度は、高度化する医療の進歩に伴い、薬剤師の専門性を生かしたより良質の医療を提供するという社会的要請に応えるため、高度な薬物療法等について知識・技術を備えた薬剤師を養成し、国民の保健・医療・福祉に貢献することを目的としている。県立病院薬剤師の教育育成に関する指針においては、各領域のモデルカリキュラムも組まれている。前半は瀬川次長に、各領域の資格について、活動や役割、そして認定要件や更新要件についてお話し頂いた。後半は、外来がん治療認定薬剤師の資格を取得された出井職員に、「活動、役割、取得のためのアドバイス」という題でお話し頂いた。資格習得のきっかけから認定要件、試験の流れ、試験対策に至るまで、詳しく知る事が出来た。専門・認定薬剤師の資格習得により薬剤師としての専門性が高まり、医療チームの一員として活躍する場が広がる。更に、診療報酬点数の算定に関与するものであれば、自身のスキルアップだけでなく病院経営にも貢献できる。研修を受けることにより、気持ちが引き締まった。

●臨床薬剤師に求められるコミュニケーションスキル

神戸学院大学薬学部臨床薬学部門 講師 上町 亜希子



臨床薬剤師に求められる患者とのコミュニケーションスキルについて、講義や提示された症例で服薬指導のロールプレイを行い、様々なケースの患者への対応を学ぶことが出来た。医療上の会話は日常会話とは異なり個別性に合ったケアを展開するためには、プライバシーに踏み込んでいかなければならない場合がある。また、良かれと思って発した言葉で患者を傷つけることもあり、医療者と患者間のコミュニケーションをめぐるトラブルを引き起こさないよう、曖昧ではなく、正確で誤解のない会話が重要である。善意を患者に上手く届けるにはトレーニングが必要

であり、①薬剤師の質問の仕方、②患者の言葉に対する応答の仕方、③患者の言葉に対する踏み込んだ質問の仕方の3つを変えるだけで、コミュニケーションは大きく変わるといふ。患者が薬剤師に求めているのは、アドバイザーではなくパートナーであるという事を念頭に置き、今後の薬剤管理指導業務に活かしたい。

薬剤師専門研修（感染制御・救急領域）：

平成29年11月29日（水）兵庫県立尼崎総合医療センター

参加15名

専門教育研修（感染制御・救急領域）では、①一般病棟・救急病棟における感染症症例の検討及び問題解決に向けて薬剤師が知っておくべき薬物治療の視点についてのディスカッション②感染及び救急領域における資格取得に必要な知識と認定制度について薬剤師による講義が行われた。

ディスカッションでは、各病院より、実際に薬剤師が関わった症例を提示し、治療の進め方、培養結果の見方、抗生剤の選択・用量・投与期間等について活発な議論が行われた。医師・薬剤師との意見交換を通して、患者背景の把握や培養結果を正しく分析することにより、抗菌薬の適正使用に貢献できると実感した。また、様々な感染症例について医師・薬剤師とディスカッションをすることにより、知識の幅を広げるだけでなく、薬物治療について自分の考えを伝える技術の向上につながった。

薬剤師による講義では、感染制御・救急認定薬剤師の申請基準および症例報告の注意事項の説明があった。受験するためには、学会入会や単位取得の事前準備を早い時期から行っていく必要があることを学んだ。本研修をきっかけにさらなる自己啓発をはかり薬剤管理指導業務やチーム医療の場で知識を活かすことで、今後も抗菌薬の適正使用に貢献していきたい。



薬剤師専門研修（がん・緩和領域）：

平成29年12月6日（水）兵庫県立西宮病院

参加10名

本研修では、①医師による講義（消化器がんの最新エビデンス）②薬剤師による講義（がん薬物療法の有害事象対策、外来がん治療認定薬剤師の資格について）③グループに分かれて症例検討（がん・緩和薬物療法における薬剤師の役割について）が実施された。

①医師による講義では、消化器がんに対する国内外の化学療法について学んだ。遺伝子変異による薬効への影響や治験を行っている最新の治療について知るこ



とができた。

②薬剤師による講義では分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬の副作用対策について、特徴的な副作用や確認が必要な項目について学び、殺細胞性の抗がん剤との違いについて理解することができた。外来がん治療認定薬剤師制度についての講義では、認定要件や提出症例の書き方について学んだ。実際の試験問題や認定薬剤師の活動を知ることによって必要性を感じ、資格取得に向けて意識を高めることができた。

③症例検討では、治療開始前から確認しておくべき検査項目や、患者の訴えや検査値に沿った投与量の検討、対症療法に使用する薬剤との相互作用について活発な議論が行われた。また患者の苦痛緩和を図るためには、苦痛の原因や対処方法についての幅広い知識はもちろんであるが、患者に寄り添う姿勢が重要であると再認識した。

本研修で学んだ知見を活かし、質の高い抗がん剤治療を提供できるよう努めていきたい。

平成29年度県立病院相互利用実績

実施日	内容	病院名	参加人数
10月4日	緩和ケアチームラウンド	尼崎総合医療センター	2名
10月4日	・ 外来化学療法患者への服薬指導、 ・ 外来麻薬指導 ・ レジメン管理業務 ・ 抗がん剤調製業務	がんセンター	5名
10月12日	抗菌薬適正使用カンファレンス	尼崎総合医療センター	3名
10月12日	糖尿病教室	尼崎総合医療センター	1名
10月19日	集中治療室での業務（成人・小児）	尼崎総合医療センター	(成人) 1名 (小児) 2名
10月19日	NSTラウンド	西宮病院	1名
10月17日	せん妄ラウンド	尼崎総合医療センター	3名
10月31日	心不全カンファレンス	尼崎総合医療センター	1名
11月15日	緩和ケアチームへの参加	加古川医療センター	1名

※県立病院相互利用とは：

県立10病院における新規業務、システム、特徴的な取り組み（チーム医療、病院独自の取り組み等）を病院間で情報共有することにより、人的・物的資源の有効活用を図ると共に、県立病院全体の業務の質向上を図る取り組み

兵庫県立病院レジデント制度

受入実績

(平成29年5月現在)

平成29年度受入人数：19名（1年目12名、2年目7名）

平成28年度レジデントのうち兵庫県職員合格者：2名

《参考》レジデント受入年次推移

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
12名	14名	20名	19名

レジデントの声

兵庫県立尼崎総合医療センター レジデント（1年目） 生盛 春菜

兵庫県立尼崎総合医療センター薬剤師レジデント一年目の生盛と申します。

私は、病棟薬剤業務について紹介します。当院は病床数730床、救急を含めた46科の診療科を持つ超急性期病院で、レジデントは2ヶ月目から複数の病棟を順に担当します。私は7か月の間に消化器科、血液内科、整形外科を経験しましたが、病棟では他職種から薬剤について多くの相談を受けます。整形外科病棟では看護師から不眠に対する相談を受け、患者は寝られないことに対する苦痛が非常に強く、入眠困難と中途覚醒があり、「ほとんど一睡もできていない」と訴えていました。そこで、患者が高齢で手術後であり、せん妄リスクも高かったことから、院内せん妄マニュアルに沿ってベンゾジアゼピンの複数処方から、ベンゾジアゼピンとトラゾドンへの変更を主治医に提案しました。トラゾドンには深睡眠増加効果もあり、処方が変更された後、患者からは寝られるようになったとの声を聞くことができました。自分の考えた薬物治療がそのまま患者に実施されることがあるので責任は重大ですが、同時に非常にやりがいもあります。自分が調べたり勉強したことが患者の利益につながるのだから、これからも経験を重ね、患者により良い医療を提供できるよう努力したいと思っております。

書籍出版・学会発表

病院名： (尼) … 尼崎総合医療センター (西) … 西宮病院 (加) … 加古川医療センター
(淡) … 淡路医療センター (こころ) … ひょうごこころの医療センター
(柏) … 柏原病院 (こども) … こども病院 (が) … がんセンター
(姫) … 姫路循環器病センター (粒) 粒子線医療センター ※ … レジデント

書籍等出版物（上段：タイトル・著者／下段：出版社等）

※メーカー作成の出版物（パンフレット、小冊子）を除く

期間：平成28年12月～平成29年11月

心不全緩和ケアの基礎知識35 文光堂	(が) 高橋知孝
-----------------------	----------

神経変性疾患患者に対する唾液分泌抑制効果のある 5%スコポラミン軟膏の効果検証	(尼) 奥貞佳世子
医薬ジャーナル 2017 年 10 月号 (Vol. 53 No. 10) 株式会社医薬ジャーナル社	
高齢者糖尿病患者の血糖管理目標と多剤併用 (ポリファーマシー) の問題点	(尼) 辻本勉
DM Ensemble Vol.6 No.2 2017 August 日本糖尿病協会	
Ⅷ章 ライフステージ別の糖尿病薬物治療 1 小児 2 高齢者	(尼) 辻本勉
糖尿病の薬学管理必携 糖尿病薬物療法認定薬剤師ガイドブック 株式会社 じほう	

学会発表

期間：平成 29 年度発表分（発表予定を含む）

● 第 20 回日本臨床救急医学会総会・学術集会 平成 29 年 5 月 26 日～28 日

集中治療担当薬剤師のフローチャート作成による薬物療法介入	(尼) 馬場奈津美
持続的腎代替療法及び血漿交換施行中の小児のバンコマイシン初期投与設計に難渋した一症例	(尼) 後藤真奈美

● 第 11 回日本緩和医療薬学会年会 平成 29 年 6 月 2 日～4 日

緩和医療における専任薬剤師業務の進展 ～認定薬剤師参画による院内医療者のスキルアップに向けた取り組み～	(が) 柴田博子
在宅看取りをかなえた症例を経験して～在宅でのモルヒネ使用の検討～	(姫) 藤尾実穂

● 第 22 回日本緩和医療学会学術大会 平成 29 年 6 月 23 日～24 日

終末期心不全患者に対する鎮静薬の使用状況について	(が) 高橋知孝
--------------------------	----------

● 第 2 回日本心臓病リハビリテーション学会学術集会 平成 29 年 7 月 15 日～16 日

当院における外来心リハ患者への薬剤師の関わり	(姫) 前田真由子
------------------------	-----------

● 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会 平成 29 年 7 月 27 日～29 日

免疫チェックポイント阻害剤の安全使用に向けたチームでの取り組み	(が) 渡邊小百合
---------------------------------	-----------

● 第 15 回兵庫県立病院学会 平成 29 年 9 月 9 日

集中治療担当薬剤師のフローチャート作成による薬物療法介入	(尼) 馬場奈津美
持続的腎代替療法及び血漿交換施行中の小児のバンコマイシン初期投与設計に難渋した一症例	(尼) 後藤真奈美
薬剤乳汁移行性情報提供に関する取り組み	(尼) 門倉史枝
総合型薬剤師育成ラダー研修及び CPD に沿った生涯研修の実施状況について	(尼) 西窪奈津子
当院での認知症ケア委員会における薬剤師の関わり	(西) 河原香織
治療抵抗性を示す MSSA 菌血症に対し ICT ラウンドが効果的であった一症例	(西) 山田真人
悪性軟部腫瘍における エリブリンメシル酸塩投与による末梢神経障害の発現調査	(西) 酒井美和
薬剤師の質の向上を図るための取り組み	(加) 福井由美子
治癒切除不能な進行・再発胃癌患者に対するラムシルマブによる副作用の実態調査	(加) 鹿島彩絵
テイコプラニン TDM における薬剤部の取組みとその効果～抗菌薬 TDM ガイドライン 2016 と当院プロトコルの比較～	(加) 大城里紗
低腎機能患者へのバンコマイシン投与状況と血中濃度の調査	(加) 土井本和久
糖尿病教育入院による患者の血糖コントロール改善の検討	(加) 松村美紀

酸化マグネシウム製剤服用による高Mg血症発現の要因の検討	(加) 百濟圭祐
病棟業務における電子カルテ端末を搭載したコンパクトカートの導入効果について	(淡) 青井直樹
在宅患者訪問薬剤管理指導における病院薬剤師の役割	(淡) 庄司聖
転倒転落患者の処方内容から考える向精神薬のリスク	(こころ) 田中将太
当院におけるがん化学療法レジメンに含まれる制吐薬の現状調査	(柏) 中須賀基
薬剤師主導によるクリニカルパスの術後感染予防抗菌薬の適正化～さらなる医療の質向上に向けて～	(柏) 入江優美
対策立案シートを活用したより実効性のあるヒヤリ・ハット防止対策への取り組み	(こども) 上田里恵
こども病院におけるASP推進への取り組み	(こども) 廣瀬晃子
小児専門病院における病棟薬剤業務について	(こども) 野田有貴子
骨髄移植後の急性GVHDに対し介入を行った症例	(こども) 研真梨子
内服抗がん剤の適性使用への取り組み～処方箋への薬歴表示導入効果の検証～	(が) 古川直登
当院におけるESBL産生菌に対する治療状況	(姫) 沖元秀都
末期心不全患者の呼吸困難に対する在宅での薬物療法の検討	(姫) 藤尾実穂
● 第6回日本くすりと糖尿病学会学術集会 平成29年9月17日～18日	
尼崎総合医療センターにおけるエンパグリフロジン 診療科別処方患者の患者背景及び有害事象の比較	(尼) 久保祥子
糖尿病教育入院による患者の血糖コントロール改善の検討	(加) 松村美紀
淡路医療センターにおける2型糖尿病患者シックデイ時の治療薬対応に関する連携体制の構築について	(淡) 小林真弓
薬剤師による糖尿病教育入院の取り組みについて	(姫) 千保円
● 第65回日本心臓病学会学術集会 平成29年9月30日	
心不全終末期における薬物療法～非がん患者の緩和ケア～	(が) 高橋知孝
● 第11回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 平成29年9月30日～10月1日	
腎機能低下患者へのバンコマイシン投与状況と血中濃度の調査	(加) 土井本和久
● 第44回日本小児臨床薬理学会学術集会 平成29年10月7日～8日	
小児がん化学療法に対する抗がん剤曝露対策パンフレットの作成について	(尼) 本上ほなみ※
● 第50回日本薬剤師会学術大会 平成29年10月8日～9日	
認知症ケアチームへの薬剤師の取り組みについて	(西) 篠原瑠璃
リスク回避にも配慮した持参薬関連業務への薬剤師の取り組み	(姫) 大谷祐子
● 第56回全国自治体病院学会 平成29年10月19日～20日	
術前センターにおける薬剤師の関わり	(西) 尼谷こゆは
持参麻薬を適正管理するための工夫	(加) 福田朝恵
在宅患者訪問薬剤管理指導における病院薬剤師の役割	(淡) 庄司聖
転倒転落患者の処方内容から考える向精神薬のリスク	(こころ) 田中将太
● 第49回日本小児感染症学会総会・学術集会 平成29年10月21日～22日	
当院作成「小児に対するGM-TDMレジメン」の有用性	(こども) 三輪祐太郎
● 第55回日本癌治療学会学術集会 平成29年10月20日～22日	
フルオロウラシル系薬剤とWarfarinの適正使用推進に向けての取り組みについて	(姫) 大野真孝

● 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部
総会合同学会 平成29年10月31日～11月2日

血清 VCM トラフ濃度の予測値と実測値の乖離要因としての BNP の検討	(加) 長谷川みどり
バンコマイシン (VCM) 治療薬物モニタリング (TDM) における腎障害発現に関する検討	(姫) 初田真穂

● 第27回日本医療薬学会年会 平成29年11月3日～5日

当院救命救急センターにおける血液培養ラウンド・抗菌薬ラウンドの効果に関する考察	(尼) 前原大輔
薬剤乳汁移行性情報提供に関する取り組み	(尼) 門倉史枝
バンコマイシンの初回トラフ値が10 μ g/mL未満であった症例の投与量調査	(尼) 直朋弘
救命救急センターにおける人工呼吸管理患者に対する鎮痛鎮静プロトコル導入後の鎮痛鎮静管理の実態調査	(西) 末森千加子
院外処方箋への臨床検査値記載を開始して-アンケートによる地域薬剤師の意識調査-	(柏) 田畑佳祐
小児がん化学療法レジメン管理の電子カルテシステムの導入について	(こども) 坂本有里恵
健康食品の使用状況と適正使用のための取り組み	(粒) 合田泰志
当センターにおける入院患者の薬剤管理方法の検証	(粒) 團優子

● 第14回 日本在宅静脈経腸栄養研究会学術集会 平成29年11月4日

小児在宅静脈栄養における薬剤師の取り組み	(こども) 愛甲佳未
----------------------	------------

● 第59回日本小児血液・がん学会学術集会 平成29年11月9日～11日

Löffler 心筋症を合併した急性リンパ性白血病児に対するデクスラゾキサ ン予防投与	(尼) 永井浩章
--	----------

● 日本糖尿病学会中国四国地方会第55回総会 平成29年11月10日～11日

当院における高齢者への経口糖尿病薬使用調査	(柏) 瀬川和子
-----------------------	----------

● 第12回医療の質・安全学会学術集会 平成29年11月25日～26日

免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策への取り組み	(加) 横田聖子
------------------------------	----------

● 第2回 日本臨床知識学会学術集会 平成30年1月27日

術前センターにおける薬剤師の役割	(西) 酒井美和
------------------	----------

● 近畿薬剤師合同学術大会2018 平成30年2月3日～2月4日

抗がん剤曝露対策パンフレットの有用性について	(尼) 源侑馬
神経内科病棟における簡易懸濁法の導入に向けての取り組み	(尼) 坊ヶ内協子
尼崎総合医療センター整形外科領域におけるベンゾジアゼピン系薬剤使用患者と術後せん妄発症との関連性の調査	(尼) 辰美佳
授乳婦に関わる医療スタッフを対象とした薬剤乳汁移行性一覧表に関するアンケートの評価	(尼) 國東佑美
部内インシデントの分析からみえた実践的研修の有効性について	(尼) 濱端綾太
尼崎総合医療センターにおけるラムシルマブの有害事象の発現状況について	(尼) 島田真理※
注射薬処方箋への注意喚起コメント表示の導入と評価	(西) 尼谷こゆは
当院の悪性軟部腫瘍患者に対するパゾパニブ療法における高血圧の実態調査	(西) 宇賀治美花※
ddEC療法とEC療法におけるペグフィルグラスチム使用による骨髄抑制及び発熱性好中球減少症 (FN) の予防効果	(加) 東千絵
当センターにおけるC型慢性肝炎に対するDAA療法への薬学的介入に関する調査	(加) 楠本祥子

ケロイド・肥厚性瘢痕治療におけるトラニラストの副作用に関する調査	(加) 桑原かな※
大腿骨近位部骨折クリニカルパスへのアレンドロン酸導入について	(淡) 有馬典子
当院薬剤部における災害対策～アクションカードの見直し～	(淡) 尾向紗由理
当院における直接経口抗凝固薬(DOAC)の使用状況調査	(淡) 平見大軌※
向精神薬による転倒リスク検討-平衡機能検査を実施した症例	(こころ) 田中将太
当センターにおけるベンゾジアゼピン受容体作動薬の安全使用への取り組み	(こころ) 東佑輔
VCMのTDM関連検査プロトコルの改訂に伴う初回トラフ値の変化について	(柏) 玉置尚
疑義照会事例収集方法の変更によるデータ集積とその活用について	(柏) 南のどか
小児感染症におけるGM-TDMプロトコルに基づく介入	(こども) 乗松耕平
兵庫県立こども病院における薬剤師主導の抗菌薬適正支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team:AST)活動について	(こども) 宇戸裕介
ナルデメジントシル酸塩錠の使用状況調査～新規薬剤の適正使用に向けて～	(が) 倉本舞
閉鎖式システムの導入による抗がん剤の曝露防止のための取り組み	(が) 岡松雅樹※
当院における睡眠薬推奨基準作成の取り組みと薬剤師の介入	(が) 前田和輝※
高齢者へのSGLT2阻害薬の使用実態調査について	(姫) 柴田直子
当院におけるESBL産生菌に対する治療状況	(姫) 沖元秀都
末期心不全患者の呼吸困難に対する在宅での薬物療法の検討	(姫) 藤尾実穂
自己注射薬を用いた糖尿病治療における薬剤師の役割	(姫) 高月真由美
SPDスタッフ等への薬剤師補助業務委託による薬剤師の業務効率化	(姫) 松岡彩絵※
モルヒネとワルファリンの相互作用に関する検討	(姫) 清水菜央※

● 第45回日本集中治療医学会学術集会 平成30年2月21日～23日

心臓内科集中治療室及び心臓ハイケアユニットにおける硝酸薬持続静注による耐性の実態調査	(尼) 大原沙織
重症感染症に対してCHDF施行条件下で行ったVCM投与設計	(西) 山田真人

● 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 平成30年2月22日～23日

兵庫県立尼崎総合医療センターで嚥下機能改善及び誤嚥性肺炎予防を目的とした半夏厚朴湯の使用状況について	(尼) 奥貞佳世子
--	-----------

● 第33回日本環境感染学会総会・学術集会 平成30年2月23日～24日

尼崎総合医療センター血液内科病棟におけるテイコプラニンの負荷投与と初回トラフ値について	(尼) 石井恵理香
当センターにおける腸内細菌の耐性率とLVFX使用状況について	(加) 坂井良美
当院ICTにおけるMEPM使用患者への介入による現状と課題	(淡) 陣田剛志

● 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2018 平成30年3月17日～18日

当院でのトラベクテジン使用患者における有害事象に関する実態調査	(西) 太田あづさ
イリノテカンによるコリン様症状発現の実態と院内での取り組み	(加) 出井枝里子
ナルデメジントシル酸塩錠導入による有害事象の調査	(柏) 植木彩

● 第82回日本循環器学会学術集会 平成30年3月23日～25日

循環器内科一般病棟における減薬チェックシートを利用したポリファーマシー対策の評価と考察	(尼) 谷原明子
術前・検査前に休薬した抗凝固剤・抗血小板剤の再開に関する調査	(加) 櫻井明子

専門・認定薬剤師等の取得

県立病院における専門・認定薬剤師等の取得状況

(平成30年1月現在)

名称・認定団体等		医療センター	尼崎総合 西宮病院	加古川 医療センター	医療センター	淡路 医療センター	ひょうなんの 医療センター	柏原病院	こども病院	がんセンター	がんセンター センター	粒子線 医療センター 姫路循環器病 センター	合計
がん指導薬剤師	日本医療薬学会									1			1
がん専門薬剤師	日本医療薬学会									1			1
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会							1					1
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1						1				1	3
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	3	2					1	1	1			8
栄養ケア・チーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	2	2	1	1					2	3	1	12
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会	1								3			4
日本医療薬学会認定薬剤師	日本医療薬学会		1					1				1	3
生涯研修履修認定薬剤師 (5年)	日本病院薬剤師会	14	6	7	3	2	3	7	7	7	6	2	57
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	4	1	3		1		1	5		1		16
認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	7	6	7	4	1	2	6	8	4	1		46
日病薬認定指導薬剤師	日本病院薬剤師会	2		3				1		2	2		10
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	2							3				5
漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1											1
日本臨床薬理学会認定 CRC	日本臨床薬理学会									1			1
救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会	1	1										2
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	1	1	1				1		1			5
日本 DMAT 隊員	厚生労働省医政局長	3	2	2							1		8
スポーツファーマシスト	日本アンチ・ドーピング機構	2		4									6
外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会	1	1	1					1	1			5
糖尿病薬物療法認定薬剤師	日本くすりと糖尿病学会	1											1
合計		46	23	29	8	4	11	19	33	16	7		196

2015年5月のWHO総会において、薬剤耐性菌に関するグローバル・アクション・プランが採択されたことを契機に、本邦においても薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが策定される等、抗菌薬適正使用に関する様々な取り組みが開始されています。このような背景から抗菌化学療法に精通した抗菌化学療法認定薬剤師の重要性が高まっていると言えます。

抗菌化学療法認定薬剤師は、主にICTやAST活動を通じて抗菌薬の不適切使用症例や治療難渋症例に対する専門的な助言や情報提供が求められます。そのためにも常に最新のガイドライン等の情報を収集し、自らの知識をアップデートすることが大切です。また、介入する際には診療録の情報だけではなく、ベッドサイドでの情報収集、病棟スタッフとの連携、主治医や細菌検査技師との情報交換等により、詳細な病態把握を行い、薬剤師の視点から評価することが信頼を得るために重要です。時にはセオリー通りにはいかず、細菌検査技師・ICT担当医・主治医らと悩みながら治療方針を組み立てることもあります。

感染症専門医が不在の施設はたくさんあり、そのような施設では抗菌化学療法認定薬剤師の存在が、より重要視されると思います。感染症は診療科を問わず発生すること、多剤耐性菌の院内伝播が社会的な問題となっていること、新規抗菌薬が創出されにくい現状から広域抗菌薬の安易な使用は慎む必要があること等から活躍の場は無限にあります。多くの臨床経験・研鑽を積み、共に感染制御・抗菌薬適正使用に汗を流しましょう。

平成29年度教育研修委員会の取り組み

1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施

昨年度から全職員を対象として全面実施した「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について、進捗状況を確認した。

2 県立病院薬剤師研修の企画・運営

(1) 平成29年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）

平成29年6月3日（土）開催 同研修会の企画・運営

(2) 平成29年度第2回県立病院薬剤師研修（階層別研修：職員（前期）対象）

平成29年11月18日（土）開催 同研修会の企画・運営

(3) 薬剤師専門教育研修（感染制御・救急領域）

平成29年11月29日（水）開催 同研修会の企画・運営

(4) 薬剤師専門教育研修（がん・緩和領域）

平成29年12月6日（水）開催 同研修会の企画・運営

(5) 平成30年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）

平成30年6月2日（土）開催予定 同研修会の内容等について企画

3 県立病院の相互利用の活性化

- ・複数の施設が参加する合同研修を企画・実施した。
- ・各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを「相互利用のための各県立病院情報」として更新し、県立病院薬剤部ホームページ（会員用）に掲載した。

- ・ 専門教育研修（がん・緩和領域、感染制御・救急領域）を県立病院の医師、薬剤師を講師として実施した。
- 4 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修を効率的に実施するために、研修会等の検索方法や「J—PALS」を利用したe—ラーニングによる学習方法を、県立病院薬剤部ホームページに掲載し、情報提供した。
- 5 教育研修委員会だよりの発行
今年度はトピックスとして、「『光風病院』から『ひょうごこころの医療センター』へ」を掲載し、教育研修委員会だより第15刊を発行した。

編集後記

2月には韓国・平昌で冬期五輪が開催され、2020年東京五輪まで約900日となりました。五輪を目指す多くの選手が互いに切磋琢磨して練習に励み、力をつけてきたのではないのでしょうか。薬剤師も互いに切磋琢磨することで全体の質向上に繋がると思います。今後も教育研修委員会では各取り組みを通して職員のレベルアップに貢献していきたいと思います。

平成29年度教育研修委員会

担当部長	兵頭純子	辻本純子		
委員長	西窪奈津子			
副委員長	瀬川和子			
委員	村田和歌子	櫻井明子	尾向紗由理	東佑輔
	大前隆広	横田哲子	大谷祐子	團優子